議事概要

令和３年度　第２回　新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会

日　時：　令和４年３月１６日（水）　午前１０時００分～１１時００分
場　所：　新潟市芸術創造村・国際青少年センター　４階　多目的スペース２
出席者：　新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会委員
　池田委員、今井委員、枝並委員、栗田委員、小島委員、中谷委員、中村委員、
　本間謙一委員、本間浩之委員、渡辺委員
事務局
　地域教育推進課長ほか７名
傍聴者：　なし

１　開会

２　地域教育推進課長あいさつ

３　議事
（１）令和３年度の事業の成果と課題
（本間浩委員）コーディネーターの複数配置制について、とても大事なことだと認識している。現在、どれだけの状況で複数配置が進んでいるか
（事務局）　100 校ぐらいは複数配置が進んでおり、少しずつ増加している。
（渡辺委員）　学校から、コーディネーターをなるべく早く２人体制になるようにしていますという便りをいただいたが、見つけることが大変なのか。
（事務局）　市民に公募をかけて、面接選考・書類選考をしている。われわれ大人が子どものころに、コーディネーターという職が学校にいなかったので、構えるところがあると思っている。
（栗田委員）　現場からの報告として、地域のボランティアの数が激減しており、特に高齢者が多い。世代交代が必要という話もあり、学校ではコロナ禍で新しく事業ができなくなっていることもある。それはマイナスだけれども、逆に考えるとプラスになるような活動が生まれてくることもあるので、重点化を図ることで、やりようがあると思っている。

（２）次年度に向けての意見交換
（小島委員）　中学校も小学校も Zoom を使って相手の人たちから話を聞くことが増えたので、ボランティアの人数に対して、あまり悲観的に考えなくてもよいのではないか。コロナ禍でやり方が変わってきて、学校の授業としてカリキュラムを組むときも、手と手を取ってやる活動から、現在は、非接触でやっているという現状がある。

（今井委員）　大学生とか、ＮＰＯ法人がボランティアで関わってくれるところは、その方たちのやりたいこととか、達成したいことと学校が求めていることが合致したということが大きい。地域と保護者のボランティアがなぜ増えていかないかは、忙しいというのもあるが、そこに行くことでどんな喜びがあるのかをもっと見せてはどうか。参加した保護者の方たちが、何かそこで感動体験があって、それをほかの保護者の方に伝えてというのを活用していくと、巻き込んでいけると感じる。

（池田委員）　今、新潟市でも、いろんな市の情報が、LINE で手元のスマホに届くので、パートナーシップ事業の市報に載った特集みたいなかたちで、そこで配信してもらうと、学校に関わりのない市民の方も目にすることができるのではないか。

（本間謙委員）学校で校長は何ができるかというときに、学校での各種集会とか、いろいろなところでプレゼンを作って、同じ思いを発信しようということをやってきており、それは少しずつ浸透していると思っている。校長のマネジメント力と、情報共有と、チームワークが大事だと思う。

（枝並委員）　授業の補助の方が、実数は減っているが、延べ数は増えている。授業の補助は子どもたちと接する時間が長く、自分がこの子の役に立っている、自分も生きがいにつながっているというのがあって増えているというか、やめる人が少ないと思う。生涯学習に関連してくるところでもあり、ぜひ授業の補助ボランティアを増やしていってほしい。

（中村委員）　何かの役に立っている、誰かの役に立っているというのは、人間として大事なことで、子どもたちが、それを受けてきた側の人たちが、今度は、それをやる側のほうになっていってほしい。中学生が小学生に、高校生が中学生、小学生にというところで、下の子のためだったら頑張れるというのがあると思うし、お互いにウィンウィンになる。

（中谷委員）　教員を目指すような人たちが、学校時代に何が楽しかったかというと、縦割りが楽しかったという話を聞かせてもらった。優しくなれるという言葉がとても心に残っていて、パートナーシップ事業が対応力を付加するというのをすごく実感している。

（３）その他

４　閉会

【配布資料】

・資料１　新潟市地域と学校パートナーシップ事業実施要綱
・資料２　新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会開催要綱
・資料３　令和３年度　事業の取組